

令和5年白老町議会総務文教常任委員会協議会会議録

令和5年6月23日（金曜日）

開 会 午後 3時23分

閉 会 午後 3時45分

○会議に付した事件

協議事項

1. 望ましい教育環境の在り方の検討について
-

○出席委員（6名）

委員長 吉 谷 一 孝 君

副委員長 佐 藤 雄 大 君

委 員 大 淵 紀 夫 君

委 員 小 西 秀 延 君

委 員 氏 家 裕 治 君

委 員 前 田 博 之 君

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者の職氏名

教 育 長

安 藤 尚 志 君

学 校 教 育 課 長

鈴 木 徳 子 君

学 校 教 育 課 主 査

鍵 井 昭 太 君

○職務のため出席した事務局職員

事 務 局 長

本 間 力 君

主 幹

小 山 内 恵 君

◎開会の宣告

○委員長（吉谷一孝君） ただいまより、総務文教常任委員会協議会を開会いたします。

（午後 3時23分）

○委員長（吉谷一孝君） 本日の協議事項は、1番、望ましい教育環境の在り方の検討についてであります。担当課から説明のほどよろしく願いいたします。

安藤教育長。

○教育長（安藤尚志君） 説明は鈴木課長からいたしますが、開会に当たって一言挨拶申し上げたいと思います。委員の皆様方には、本日大変お疲れのところお時間をいただきましてありがとうございます。今日お示しするものについては、今後急激に子供たちが減少していく中で、学びの環境が大変変化しております。昨年12月6日に総務文教常任委員会からも町内小中学校の教育環境の変化についてご提言をいただきました。その中にも記載しておりますが、子供たちの学びの環境の改善については喫緊の課題であるご指摘をいただき、その後教育委員会として内部で適正な配置の在り方についていろいろ検討してまいりました。今後の適正を考えていく上での基本的なベースになる基本計画をお示ししております。今月上旬に教育委員と町長を交えた総合教育会議の中でもこれをお示しして、いろいろご意見をいただいております。今後、各地域に出向いてまたいろいろ説明をしますけれども、その前に総務文教常任委員会の皆様方にいろいろ気がついたところ、直すべきところ、ご指摘をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○委員長（吉谷一孝君） 鈴木学校教育課長。

○学校教育課長（鈴木徳子君） お手元に資料1、資料2、資料3-1、3-2があると思しますので、私から在り方の検討について資料に沿って説明します。

先ほど教育長からもありましたが、ご存じのとおり出生数が34人という危機的な状況にあると捉えていること。今まで本町の教育環境の検討をするに当たって様々な計画等で在り方が出されながら進められてきましたが、長いスパン、中長期的な視点も持ちながら今後対応していくことが担当者としては必要であると感じたこともありまして、令和5年度中に計画の策定を始めるために、今回協議会の中でお伝えしたいと思います。

初めに資料1、1ページですけれども、当然、教育環境の在り方の必要性については皆様ご存じのとおりだと思いますが、教育委員会としては一定の集団規模が確保されていることが望ましいと考えます。その理由というのは、お互い多様な考えに触れたり認め合ったり切磋琢磨することが子供たちの資質や能力を伸ばすことには欠かせないと考えますので、そこが大事であると捉えております。令和の日本型学校教育の中にあっても、学校の教育環境の在り方については、子供たちが自分のよさや可能性を認識するためにも多様な人々と協働することがとても重要であり、今後必要となると示されていることから、本町において今学校が小規模化していることを踏まえると、この在り方について教育委員会主導で考えるやり方もあるのですが、様々な方たちの考えをいただきながら検討を行いたいということが第一前提としてございます。2番、児童生徒

数の推移と推計です。これは、平成 30 年に出されております国立社会保障・人口問題研究所の推計値で、転入、転出等一切考えず、その数値に基づきつくらせていただいております。2020 年、令和 2 年までは実績ベースで入れておりまして、2025 年、令和 7 年以降は国立社会保障・人口問題研究所の推計値を使いながら入れていきます。ただ、この中で実は細かい部分はここに示してはいたませんが、竹浦小学校が令和 10 年、11 年は新 1 年生がゼロ人になる可能性が出生数の地域別の中で示されていると。数字としては見えてはおりませんが、そのような状況がございます。

次に、2 ページです。先ほど竹浦小学校の新 1 年生がゼロ人になると言いましたが、国立社会保障・人口問題研究所の数字に基づいて各学校の地域を割り返し、はじき出した部分としては、今のところ推計として直近の令和 7 年では国立社会保障・人口問題研究所の数字というよりは、令和 3 年の出生数に基づいた推計が令和 12 年までのベースになっておりまして、それ以降が国立社会保障・人口問題研究所になっておりますが、どちらにしても子供が非常に少なくなる状況。白老小学校であっても、200 人を切る状況が令和 12 年には見えてくるという厳しい状況が国立社会保障・人口問題研究所の数字等を使っても出てくると思います。中学校につきましても、町全体で 200 人を切るのが令和 12 年で、小学校だけではなく中学校もなかなか厳しい状況であることを教育委員会としても捉えております。

3、学校の望ましい適性規模の考え方は、学校教育法の施行規則で定められておりますが、特別支援学級はそのときによって前後左右がございますので、除いた状況でここにお示しさせていただきます。適正規模は小学校も中学校も 12 学級から 18 学級あることとなっておりますので、小学校でいうと 2 クラス以上、中学校は 3 クラスか 4 クラスあることが適正と示されております。残念なことに本町の令和 4 年、5 年度につきまして、小規模以下の状況でございまして、竹浦小学校、虎杖小学校につきましては過小規模に該当する状況です。小規模は、1 学年 1 学級以上。これについては、それ以外の 4 校という状況でございます。

4、学校の適正配置の在り方については、教育委員会はこの後どうしていかうかということであります。これまで適正配置というのは、統廃合等必要なときに計画を策定し進めてきた経緯があるのですが、今回は基本計画という形で、その中に望ましい学校規模の基準の設定の検討とか、実現に向けた優先度の設定をしたいと考えております。資料 2 にその考え方をつくらせていただいたもの。これはあくまでも案ですので、これから様々な意見をいただいた中でよいものになりたいと考えております。先ほど、適正規模の学級数とお伝えしたのですが、本町の状況でいきますと、学級数は最低でも 1 学年 1 学級以上。これは今までの適正配置のときにも複式学級の解消と言われておりまして、そのことも踏まえた上で 1 学年 1 学級以上を基準として考えたいと思います。学級編成は、1 学級辺りの児童生徒数が、これは国で定められているのですが、今の小学校は小規模化を進めるために定員数 40 人を 35 人。これは令和 7 年で完成する予定ですが、35 人と引き下げておりますので、35 人を小学校の学級編成の定数として考え、中学校は今のところまだ小規模化の方向性が示されていないので、40 人をベースとして考えております。白老町は学級編成の人数として 1 学級最低でも 18 人以上、中学校だと 21 人以上。この根拠は 2 分の 1 以上なのですが、なぜ 2 分の 1 と考えたかといいますと、本町の子供たちが切磋琢磨する学び合う環境としては、大体 4 人から 5 人のグループでの学び合いがベースになっております。そうな

ったときに、グループ同士の切磋琢磨も必要と考えますと、大体小学校だと3つから4つのグループができて、中学校だと4つぐらいできることで最低限の環境が守られるのではないかと、適正規模の基準をこのように考えたいと思っております。その上で、望ましい学校規模、適性規模の実現の進め方として、2番にある優先度の設定を考えたいと思っております。

検討対象基準としては、先ほどお伝えした①、1学年1学級以上による学級運営がされているか。②、学級編成。1学級の児童生徒数が学級編成基準の2分の1以上が見込めているのか。③、該当となる学校の児童生徒数は今後の増加が見込めるのか、見込めないのか。そこを踏まえた上で、この①から③まで全て該当した場合としては優先度が高い、適正配置を行う対象校として優先度が高いので、実施対象校として考えることで優先度高。中というのは、①から③のうちの2つ。大体①、②が当てはまるイメージがありますが、当てはまった部分については検討開始校とします。低については、検討する準備校とすることで優先度設定を基本計画の中で行っていきたいと教育委員会として今回お示しする考え方になります。今までも皆様からご意見をいただいている中で、適正配置の実施方策、今までは主に学校の統廃合ではありますが、統廃合だけではなく通学区域の見直しとか、小中一貫校とか、ほかのところでできている義務教育学校の設置とか、様々な方法があります。原則として既存の校舎を可能な限り活用すると考えており、通学距離や通学時間の考慮なども含めた中で適正配置の実施方策を検討していかなければいけないと、計画の中で定めてまいりたいと思っております。適正配置を進めるに当たっての留意事項としては、地域コミュニティの配慮。今日の中でもご意見としてあつたと受けておりますが、特に竹浦地域については、学校がなくなるとコミュニティがなかなか厳しいなどありますので、地域の防災拠点とかコミュニティの核として十分踏まえた中で保護者、地域住民、関係部署による検討委員会の設置など、地域の実態を踏まえて合意形成を図りながら進めたいと思います。通学条件への配慮ということで、国で通学距離や通学時間が示されているものがありまして、小学校はおおむね4キロメートル以内。中学校については6キロメートル以内ということで、通学時間については徒歩であっても乗り物を使ったとしても、おおむね1時間以内が子供たちにとって一番ストレスが少ないことが示されていることについての配慮はしなければいけないと考えております。

資料1の4ページです。今後の進め方になります。町長とも確認しておりますが、一番大事なのは、白老町の子供たちにとって望ましい教育環境は何か。これを一番大事にして教育環境の在り方の検討を行います。計画の位置づけは、先ほど来お伝えしているように、まず基本計画を令和5年度策定したいと考えております。基本計画は本町の小中学校の適正規模、適正配置の考え方、進め方。これに関する基本的な方針を示したいと考えております。計画期間というのは定めませんが、子供の状況と社会情勢を踏まえながら必要になった見直しを考えております。実施計画というのは、基本計画で先ほどお示した優先度を設定しておりますので、適正配置に関する具体的なものを計画として実施計画を策定し、地域の人などを入れた検討委員会を設置して合意形成を図りながら進めてまいりたいと考えております。今年度のスケジュール案といたしましては、保護者に向けてアンケート調査を実施しようと考えております。対象は本町の就学前のお子さんをお持ちの保護者。小学生、中学生の保護者。小学校、中学校、認定こども園、保育園の教員等を含めて約1,000人程度を想定しております。調査内容といたしましては、学級規模や児童

生徒数、通学時間、通学距離などで、具体的なものは資料3-1、3-2にお示ししているとおりの内容で案としてつくっている状況です。原則としては、紙ではなくてグーグルフォームというアンケート手法で行いまして、どうしても紙でなければいけないところが、確認している中で小中学校で若干10件程度あるとは聞いておりますが、基本的にはオンラインの回答方法できると教育委員会としては思っております。このアンケート調査を取りまとめまして、8月から9月で町内関係部署による協議や検討。基本計画案のたたき台になっているものなどを町内の関係部署でまず検討をさせていただいて、10月から11月の中で地域の検討会で地域の方の様々なご意見をいただきながら基本計画の中に反映させられればと思っております。令和5年度、年明けにパブリックコメントを行いまして、令和6年3月に成案化と考えております。成案化の後、先ほどの優先度に合わせて実施計画を6年度以降順次進めていく考えで、教育委員会としての在り方検討についての考え方であります。

○委員長（吉谷一孝君） ただいま説明が終了しました。この件につきまして何かご意見、ご質問等あります方はどうぞ。

氏家裕治委員長。

○委員（氏家裕治君） 3ページに通学条件への配慮とあります。先ほど鈴木課長から小学校は4キロ、中学校は6キロとありました。これは片道ですか。往復ではその倍ということですか。

○委員長（吉谷一孝君） 鈴木学校教育課長。

○学校教育課長（鈴木徳子君） そうです。

○委員長（吉谷一孝君） 前田博之委員。

○委員（前田博之君） 説明は分かりました。切羽詰まっている部分結構あると思うのです。ちょっと視野を広げれば、萩野小学校、白老小学校、中学校もそれに児童数が該当している。その辺全部含めてのアンケート調査の土台になっているのか。それによって優先順位を決めるのか。あるいは、どうしてもよその地域でも教育長は同じだと思うけど、1人になるまで絶対学校に置いてくれという部分あります。そういう地域の声、あるいは強制的にやってしまうと、財源的なことをやれば交付税が減ってしまいますよね、学校がなくなるということは、それは教育費にも影響してくると思います。全部網羅した中のアンケートなのか。あるいは段階的に年度的なスケジュールの中で状況を判断して進んでいくのか。一気に計画をつくるのか。その辺だけ。

○委員長（吉谷一孝君） 鈴木学校教育課長。

○学校教育課長（鈴木徳子君） 今回つくる基本計画は、小学校も中学校も含めた基本計画です。白老町の学校に関して全て含んだ中で基本計画を立てたいと考えておりますので、アンケートに関してもそこを見越して行うつもりでおります。

○委員長（吉谷一孝君） 安藤教育長。

○教育長（安藤尚志君） 鈴木課長から説明したように、ある程度大局、長期的な視点を持って適正な配置を考えていくというベースをお示ししたものです。喫緊に解消しなければならない課題もあるものですから、それについては6年度の実行計画の中でまず対象としてやるという選び方になっていくと思います。それを全部一度にやることはできませんので段階的になると思うの

ですけれども、これからの学校、子供たちの学びの環境についてのベースを今年度つくって、緊急度の高、中、低というランクがありました。高いところから順番に取り組み方を考えております。

○委員長（吉谷一孝君） ほかいかがでしょうか。

私から。今後策定スケジュール等々ありますが、そちらの進んだ段階でまた議会にご説明いただければと思いますが、よろしいでしょうか。

鈴木学校教育課長。

○学校教育課長（鈴木徳子君） 策定スケジュール案にはありませんが、地域検討会等を行って、意見が多分出てまいりますので、基本計画の素案がそこでまとまってまいりますので、その時点でまた皆様のご意見をお伺いしたいと思っています。それ以外でも、後で気づいてご意見があったら助かります。よろしくお願ひします。

○委員長（吉谷一孝君） そのように進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎閉会の宣告

○委員長（吉谷一孝君） それでは、総務文教常任委員会協議会を終了いたします。

（午後 3時45分）